

【問】傍線部「自分の行動パターンが変わらないと世界は変わらない。しかし、それにはリスクが伴う」とはどういうことですか。本文の内容を踏まえて説明してください。また、筆者の意見に対するあなたの考えを述べてください。なお、字数は六〇〇字とします。

【時間六〇分】

生まれたての仔猫にも、一匹ずつ行動パターンに違いがあるらしい。好奇心が強かったり、臆病だったり、やんちゃだったり、おっとりしていたり……。ということは、性格って生まれつきのものなんだろうか。

それだけではないような気がする。家の近くに何匹かの地域猫がいて、餌を貰いにくるのだが、食べ物好みはばらばらでも、人間に対しては皆おなじくらいの警戒を示すからだ。よほどのことがないと、撫でさせてはくれない。

でも、もしも、あの猫たちが飼い猫だったら、行動パターンは違っていたはずだ。撫でて逃げはしないだろう。つまり、地域猫たちの対人的な振る舞いは、生来のものというよりも、生まれてから今までの経験が作り出した反応ってことなんでしょう。

「大丈夫だよ」といくら云っても、警戒心を解かないのは、過去になんらかの危険な目に遭っているのだろう。猫を嫌う人間に追い払われるとか、苛められるとか。

だけど、餌は欲しい。だから毎日、窓の外で待っている。にも拘わらず、開けると耳を伏せて警戒する。一見矛盾のようで矛盾ではない。それこそが、彼らのおかれた環境に対して、もっとも生存可能性の高い行動パターンなのだろう。

でも、と思う。一つの環境に対する最適な行動パターンとは、つまり、他の環境には適さないってことだ。逆に言えば、その行動パターンに忠実であることは、自らの生きる世界を固定する要因になるんじゃないか。適応すればするほど、その環境から出ることができなくなるのでは。例えば、それが幸せかどうかは別として、リスクを冒して警戒を解かない限り、地域猫が飼い猫になる可能性は失われる、とか。

電車やレストランなどで、ちょっとしたこと大声を出す人を見かけると驚く。短気な人だなあ、と思う。でも、性格というよりも、実は、その人が生きている世界では、それが最適な振る舞いなのかもしれない。

私は大声を出さないけど、性格が穏やかというよりも、自分が生きている世界ではそれが不利になる、という感覚が身に付いているだけなのかも。そんな私が毎日怒鳴り続けないと生きていけない世界に置かれたら、たちまち死んでしまうだろう。

大声で怒鳴っている人に向かって、「まあまあ、落ち着いて」と云ったとする。その時、「落ち着けど？ あんた、俺に死ねっていいのか？」という言葉が返ってきて、必ずしも奇妙な反応とは云えないのかもしれない。

地域や時代や階層の違いが、生きる世界の違いを生み出す。結婚観や仕事観について、親子でどれだけ話し合っても絶対に分かり合えない、と感じることがある。生まれた時代、すなわち生きている世界が違う以上、最適な行動パターンについての合意はあり得ない、ってことなんじゃないか。こうやって今日まで生き抜いてきた、という確信が役に立つのは、明日が今日までの続きの世界である場合だけだろう。

自分の行動パターンが変わらないと世界は変わらない。しかし、それにはリスクが伴う。しかも、飼い猫になったから幸せとも限らない。私もこの子たちとおんなじだなあ。と、こちらを睨みながら餌を待っている猫を見て思った。

【出典】穂村弘「穂村弘の目が覚めたら」(『東京新聞』夕刊・二〇一六年七月七日)より。

二〇一七年度A

小論文 (60分)

△注意▽

- 一、開始のチャイムが鳴るまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二、原稿用紙は、2枚配布されます。どちらか1枚を提出しなさい。
- 三、提出する原稿用紙の所定欄に、受験番号と氏名を記入しなさい。
- 四、提出する原稿用紙の冒頭にある所定欄に、○印を付けなさい。